



あいさつで自立に向かって成長する子どもを育成する

岡山市中学校長会 会長

岡山市立高松中学校 校長 溝手 得三郎

高松中の校長になることが決まってから、これだけはあると思うことを一つくらいは必ずやり切ろうと考えていた。しかし、引き継ぎの日になっても何も思い当たることはなく、「生徒がいつも笑顔で頑張る学校であつたらいいな」と何となく考えるのみであつた。4月1日に職員会議があつたが、生徒は登校して来ないので、始業式の日初めて会うことができた。最初にするのは「あいさつ」である。私は、「あいさつは平等」と考えているので、朝のあいさつは相手が誰であっても必ず丁寧に言うようにしている。歩きながらではなく、立ち止まり、足をきちんとそろえて、お辞儀をしながら、「おはようございます。」というのである。

始業式の朝、生徒にこちらから先にあいさつしても、初めて会ったからなのか、小さい声で「おはようございます。」と返されただけだつた。無視する生徒もいた。これだと思つた。私がこれから何年在籍するか分からないが、徹底してあいさつをしようと思つた。実は、本校には、校訓がない代わりに、「あいさつをしよう」「時間を守ろう」「美化に努めよう」という生活三原則がある。そのこともあって徹底してあいさつをすることにした。それも、心を込めて、丁寧に。朝は正門で生徒、先生、通行人の一人一人に「おはようございます。」とあいさつし、校内でも廊下ですれ違う生徒には、一人一人に「こんにちは」と言うように心がけた。

着任して最初のうちは、放送による始業式・終業式であつたが、そのたびに「あいさつ」の重要性を訴え続けた。さらに、卒業式の式辞でも、これから進学や就職をしても、周囲の人との関係を築くには、あいさつは欠かせないことを伝えた。以降、どのような式典でも、このことを3年間毎回伝え続けた。3年生の生徒はもうすっかり慣れたようだ。朝は今一步の時はあるが、校舎内ですれ違う生徒のほとんどがあいさつをするようになった。言い続け、実行し続けた成果が上がってきている実感が湧いてきている。卒業後、「高校に行つてあいさつは大切だということがよく分かつた。」と言ってくる生徒もいるくらい、「あいさつ校長」が定着したと思つた。

教員になってからしばらくしたころ、地域の方から「中学生はあいさつをしない。」と言われることがよくあつた。そのたびに「まず、先にあいさつをしてみてください。中学生くらいになると恥ずかしいのです。あいさつをしてくれた人にはほとんどの生徒があいさつをします。」と返していたことを思い出した。大人と子ども、先生と生徒のどちらが先にあいさつをすべきか、ということはさて置き、私は、気づいた人から先にすればいいと思つた。相手が誰であっても、私は、自分から先に生徒にあいさつをしようと思つて心がけている。議論はあるかもしれない、しかし、あいさつは人間関係を築く第一歩だと信じている。声が出なくて会釈だけでもいい。そこから始めようと訴え続けている。今は声が出なくても、卒業生が成長して社会に出た時にあいさつが大切だと思つて実行してくれることを信じている。あいさつをすることで子どもたちの人間関係が広がり、社会で活躍できるようになることを願い、私は今日も自分からあいさつをする。心を込めて、丁寧に。

令和5年度 OJT若手教員育成支援プロジェクト

「若手教員の指導力向上」と「校内の若手教員育成推進体制の構築・充実」を図ることを目的とし、令和2年度から本事業に取り組んできました。今年度もOJT支援員が年間5回各校を訪問し、授業参観や研究協議を通して校内OJTの活性化につながる取組を進めました。

参加校及び対象若手教員数

[] 内は令和4年度 小：小学校 中：中学校 義：義務教育学校

	参加校	教諭	常勤講師
小	36校〔41校〕	62人〔68人〕 (2年目：32人, 3年目：30人)	40人〔61人〕 (1年目：17人, 2年目：16人, 3年目7人)
中・義	15校〔15校〕	16人〔18人〕 (2年目：9人, 3年目：7人)	28人〔30人〕 (1年目：14人, 2年目：10人, 3年目：4人)

参観授業

社会科の授業では、資料から見つけた事実や気づき、自分の考えをChromebookに入力して共有し、学習問題を作りました。



算数科の授業の導入では、求積する際、既習事項をどのように活用すればよいか見通しをもたせました。児童は意欲的に解決に向かうことができました。

研究協議

授業反省や参観者の感想などを基に協議の柱を決めています。子どもが思考し深い学びになるための手立てや学級経営上の課題、生徒指導等についても話し合います。



授業と協議を校内OJT計画の中に位置付け、対象教員だけでなく、管理職やメンター、若手教員育成担当者が参加する学校が増えてきました。

若手教員の感想

- 2年目を迎え、他の先生方に授業を見ていただくことがぐっと減った中で、たくさんの思いを詰め込んだ学習指導案で5回も協議し、様々な教科を研修することができました。どんな授業も子どもにとっては一度きりだということを忘れず、今後も頑張ります。(小学校教諭2年目)
- 毎回、自分の課題が見つかり、それを次の授業に生かす方法を考えることができました。他の先生方の授業参観では、様々な視点から気をつけたいポイントを吸収できました。OJTで学んだことを反映させ、堂々と授業ができる教員になりたいと思います。(中学校講師2年目)

参加校の校長の感想

- 小規模校は一人で抱える業務が多く、教材等を教え合う時間を取りにくい現状があります。OJTプロジェクトを機にメンターを明確にし、経験の浅い教員が相談しやすい状況をつくりだせたことは、若手教員等の心の負担を軽減する上でもよかったと思います。(小学校長)
- 本校では、教諭・講師に関わらず教員になって3年目までは必須の研修に位置付けました。そのことが受講者間の協力関係を育み、普段のコミュニケーションにもつながっていると感じます。(中学校長)

教育課題別研究

研究成果紹介ページ「すぽっと」を紹介します！

教育研究研修センターでは、岡山市の教育課題の解決や学力の向上に役立つ指導方法の研究として、「教育課題別研究」に取り組んでいます。

令和4・5年度の「教育課題別研究」は、研究協力校（岡山中央中学校と岡山中央小学校）と連携しながら、

「資質・能力を育成するためのICTを効果的に活用した授業の実現」

を目指して研究を行いました。この研究の成果をまとめた

研究成果紹介ページ「すぽっと」を教育研究研修センターのHPに掲載します。

内容の一部を紹介します！



学び続ける先生たちを応援するコンテンツがいっぱいあるよ。
楽しみにしていてね♪

🔍検索 岡山市教育研究研修センター

岡山市教育研究研修センターHPに
令和6年3月末掲載予定！

授業づくりの基礎研修講座

～いつでも何度でも学べるオンデマンド研修22～



岡山市教育研究研修センターでは、教職員の資質能力の向上に資する研修を計画・実施しています。今年度はその工夫の一つとして、オンデマンド研修コンテンツを充実させることで、研修の個別最適化を図りました。

「授業づくりの基礎研修講座」は、先生方がいつでも何度でも学べるオンデマンド研修として新規開設した講座です。小学校・中学校の各教科、授業づくりの基礎など22のコンテンツがあり、先生方の学びたい思いに応えることができるコンテンツです。「どのように授業づくりを考えていこうかな。」「学習指導案の書き方が不安だ。」など先生方の悩みの解消や今後の学びの参考としてください。

令和5年度 授業づくりの基礎研修講座 実施要項	
1 期 間	令和5年4月3日（月）～令和5年3月29日（金）
2 会 場	演習棟（オンデマンド研修）
3 内 容	<p>【小学校】授業づくりの基礎研修講座 基礎編（クラスコード：44300001）</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業づくりの基礎【基礎】（80分） 岡山県教育研究センター 授業づくりの基礎【学習指導案作成のポイント】（110分） 岡山県教育研究センター 音読の授業づくり（80分） 岡山県教育研究センター 音読の授業づくり（80分） 岡山県教育研究センター <p>【中学校】授業づくりの基礎研修講座 基礎編（クラスコード：w1100001）</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業づくりの基礎【基礎】（80分） 岡山県教育研究センター 授業づくりの基礎【学習指導案作成のポイント】（110分） 岡山県教育研究センター 音読の授業づくり（80分） 岡山県教育研究センター 音読の授業づくり（80分） 岡山県教育研究センター

授業づくりの基礎【学習指導案作成のポイント】

岡山大学 高旗 浩志 教授による学習指導案を作成する際のポイントについての解説です。「学習指導要領解説」を使いこなし、「単元目標」を書く、「単元の評価規準」と「指導と評価の計画」を書く、「指導上の立場」を書く、「本時案」の構造を理解するの5つの内容に分けて説明しています。

学習指導案を作成する際の参考としておすすめです。

【受講者の感想】

- ・「指導上の立場」を書くのは難しかったけれど、単元観では理想、児童観では現実、指導観ではギャップを埋める方策を書くという解説が印象に残り、何を書けばよいのか理解できた。
- ・初任者の学校訪問に向けて、具体的な学習指導案の書き方について学ぶことができた。

1. 「指導上の立場」とは

— 「単元観（題材観）」には何を書くか…教材研究と教材解釈の成果

- ・ 学習指導要領に基づいて「その単元を通して身につけたい力」を把握する。
- ・ その単元の「難しさ」や「つまずきどころ」の典型等を、教科教育の研究成果や、ベテラン教師の経験知等から把握する。
- ・ 教科書教材等の内容構成（レイアウト含む）を丹念に分析する。
- ・ 単元（題材）の異校種、異学年における「系統性」を把握する
- ・ 「学習指導要領解説 総則編」巻末付録の「現代的な諸課題に関する教科等横断的な教育内容についての参考資料」を参照し、異教科の単元・教材等との「関連性」を把握する。

小学校 国語科における授業づくりの基礎・基本

ノートルダム清心女子大学 赤木 雅宣 教授による「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと（物語文・説明文）」の各領域の授業づくりの基礎・基本についての解説です。国語科の各領域のポイントや児童の視点からの面白さなどの説明に加え、具体的な実践例も掲載しています。

教材研究をする際の参考としておすすめです。

【受講者の感想】

- ・どの領域においても低学年からつながりがあり、発達に応じて授業をつくっていくことが大切。導入で好奇心をもたせられるような授業をしていきたいと思った。
- ・1つの単元を例にとり、単元の1時間ごとについての具体的な説明があったので分かりやすかった。
- ・系統を意識して、各学年で何をどう学ぶか、指導するかがわかった。また、同僚とも共有していきたい。

「話すこと・聞くこと」の授業は
活動のおもしろさから子どもに人気があります。

目標を鮮明にして、
おもしろくて、力がつく授業を目指してください！



他にも20のコンテンツがあります。令和6年度は、新たに5つのコンテンツを追加し、全27コンテンツ公開予定です。

岡山市が進める「単元（題材）全体を見通した授業づくり」に沿ったコンテンツです。ぜひ、授業づくりの参考にしてください！